



2025 年 5 月 9 日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学アート・センター主催 展覧会

「時代に生きよ、時代を超えよ」——川口黎爾^{まなざし}の直視 開催 (2025. 06. 09 - 08. 08)

今回の機会がなければ埋もれたままであった、藤牧義夫等を中心とする戦前の日本作品と海外の現代美術の優品を有する個人コレクションの展覧会です。本展覧会のタイトルを構成するメッセージ「時代に生きよ、時代を超えよ」は藤牧が記したテキストに基づきます。希代のコレクター川口黎爾がその直視（まなざし）で選び抜いたコレクションの数々をご体感ください。

1. 基本情報

会 期： 2025 年 6 月 9 日(月) ～ 8 月 8 日(金)
土日祝休館 ただし 7 月 5 日(土)、7 月 26 日(土)は開館
7 月 7 日(月)、7 月 8 日(火)、7 月 28 日(月)は閉館
*会期中に作品の展示替えがあります
前期：6 月 9 日(月) ～ 7 月 5 日(土)
後期：7 月 9 日(水) ～ 8 月 8 日(金)
開館時間： 11:00 ～ 18:00
会 場： 慶應義塾大学アート・センター（三田キャンパス南別館 1 階アート・スペース）
入 場： 無料
主 催： 慶應義塾大学アート・センター
W E B： <http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/ikigoe/>

※ 最新情報は上記、展覧会ウェブサイトをご確認ください。

2. 展覧会概要

これまで公開されることのなかった、藤牧義夫等を中心とする戦前の日本作品と海外の現代美術の優品を有する個人コレクションの展覧会をお届けいたします。

人は作品をどれほど深く見つめることができるのでしょうか。希代のコレクター川口黎爾は「まなざし」を「直視」と書きました。彼の作品を見つめる「まなざし」は作品に対峙し、深くその中に入り込んで行くようであったと言います。そのコレクションは正に「直視」を通して集められた作品の数々でした。その直視の先に佇んでいた藤牧義夫は「時代に生きよ、時代を超えよ」と言いました。時代に生き、時代を超える作品に川口は感応し、彼の「直視」に耐えた作品だけが選び抜かれていったのです。作品との対話に生きた川口が残したコレクションは、今、我々に何を語ってくれるのか。ぜひ、会場で確かめてください。

展覧会は藤牧義夫、谷中安規など戦前の日本作品を展示する前期（6/9-7/5）とB.パレルモ、A.メン

ディエタなど海外の現代美術作品を展示する後期（7/9-8/8）の2部構成で開催します。

前期：展覧会のタイトルもその言葉に因む藤牧義夫は特に川口の心を捉えた作家でした。真偽の議論も経て並ぶ藤牧版画の魅力を深く味わっていただける機会となります。合わせて谷中安規らの版画作品、さらには林倭衛の身に迫る肖像画、長谷川利行のドローイングなど時代に生きた作家達の息吹が伝わってくる作品群です。

後期：初期にコレクションされたA.タピエスに始まり、B.パレルモの身を削るようなドローイング、A.メンディエタの木の葉に刻印された姿、S.ブラウンの歩みの痕跡、H.ダルボーフェンの日々の営みが綴る波線のドローイングなど自らの生と向き合いながら、深く問いを投げかけた作家達の作品が並びます。

3. 出品作家一覧

藤牧義夫 (1911-1935?)
谷中安規 (1897-1946)
畦地梅太郎 (1902-1999)
長谷川利行 (1891-1940)
林倭衛 (1895-1945)
萬鉄五郎 (1885-1927)
三岸好太郎 (1903-1934)
アントニ・タピエス Antoni Tàpies (1923-2012)
スタンリー・ブラウン Stanley Brouwn (1935-2017)
イミ・クネーベル Imi Knoebel (1940-)
ハンネ・ダルボーフェン Hanne Darboven (1941-2009)
ブリンキー・パレルモ Blinky Palermo (1943-1977)
アナ・メンディエタ Ana Mendieta (1948-1985)

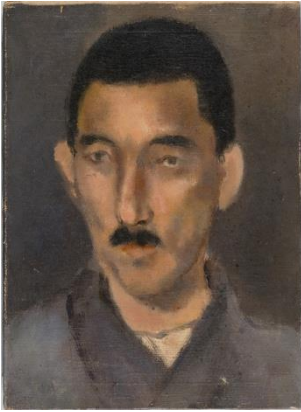
4. 広報画像と展示予定作品

- a. 林倭衛 《康氏肖像》
- b. 谷中安規 《蝶を吐く男》
- c. 藤牧義夫 《ひゞき》
- d. 藤牧義夫 《鉄の橋》
- e. 藤牧義夫 《彼等の集り》
- f. アナ・メンディエタ 《無題 (UNTITLED)》
- g. ハンネ・ダルボーフェン 《無題 (UNTITLED)》
- h. ブリンキー・パレルモ 《無題 (Ohne Titel/Untitled)》
- i. ブリンキー・パレルモ 《無題 (Ohne Titel/Untitled)》

※ 提供：慶應義塾大学アート・センター／撮影：村松桂（株式会社カロワークス）

※ 実際の展示作品とは異なる場合がございます。ご了承ください。

※ 画像を利用する際には、クレジットをおつけください。



a.



b.



c.



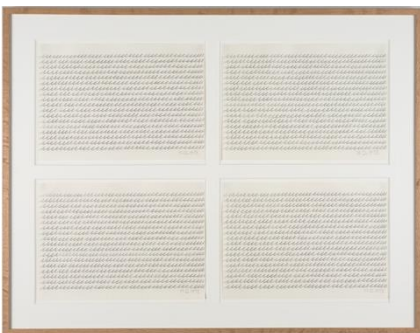
d.



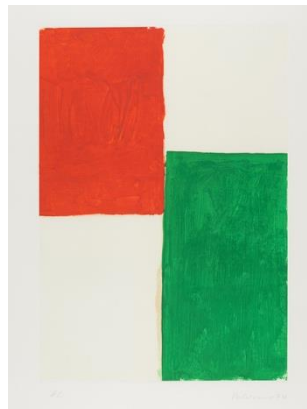
e.



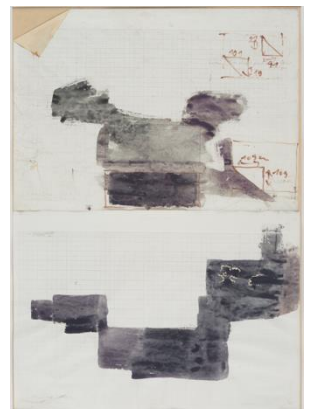
f.



g.



h.



i.

5. 関連イベント

講演会

開催日：2025年7月5日(土)

登壇者：大谷芳久（元かんらん舎）

※ 予定は予告なく変更されることがあります。

※ 詳細は展覧会ウェブサイトで順次公開いたします。

<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/ikigoe/>

6. 会場案内

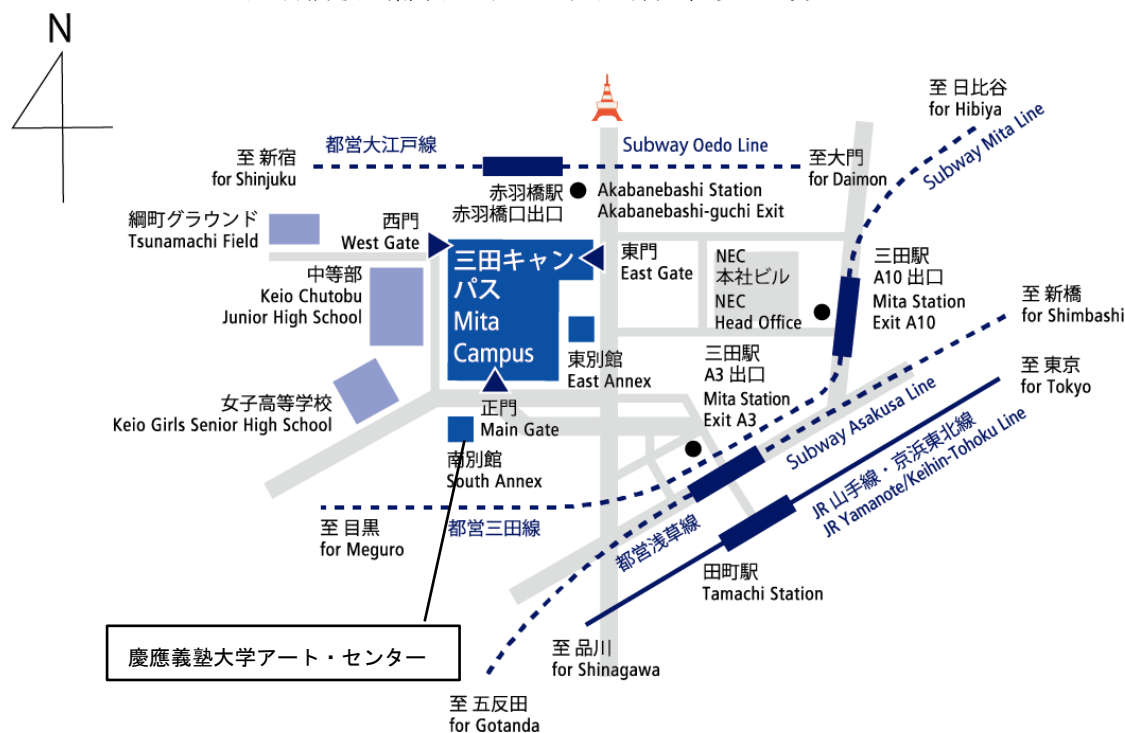
会場：慶應義塾大学アート・センター（三田キャンパス南別館 1 階アート・スペース）

住所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

交通アクセス：田町駅（JR 山手線／JR 京浜東北線）徒歩 8 分

三田駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩 7 分

赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩 8 分



※ ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※ 本リリースは文部科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（寺西）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

E-mail：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>